

## ●平成23年度推薦入学についての講評等

### 1 小論文

#### (1) 方法

「新聞の社説程度の資料」を提示した上で、「生徒の考え」を問う。

本学で学ぶ学生には、日頃から新聞の社説程度の文章に慣れ、「人間・社会に関する興味」を持ってもらいたい。そのような資料を提示した上で、与えられた課題に対し、生徒が「主体的にどのように取り組むか」を評価した。

#### (2) 結果に関する講評

課題に対して、理由や根拠をきちんと示したうえで、自分の意見を主張できていた論文については良い評価が下されている。

その一方で、課題に答えていない論文や意見の理由や根拠が示されていない論文、論点がバラバラで一貫性に欠ける論文、一般常識論の陳述に終始している論文、極端に字数が足りないまたはオーバーしている論文などは、評価が低くなる。

推薦入学における小論文の評価の観点は、「与えられた課題に対し、生徒が主体的にどのように取り組むか」という点である。資料をよく読み、与えられた課題に対して自分なりの意見を積極的に主張して欲しい。

まとまりのない文章では、意見が伝わらない。自分の意見を持ち、言いたいことが伝わるようなまとまりのある文章を書けるようにご指導いただきたい。

また、誤字脱字が多い文章、乱筆や字が小さすぎ判読に困る文章、段落がない文章などが散見される。作文の基本を守った読みやすい文章が書けているのか、いま一度確認をお願いしたい。

### 2 グループ面接

#### (1) 方法

事前（受験票送付の際）に、課題に関する「キーワード」を提示し、キーワードについて、「十分に勉強してきたという前提」で、生徒一人一人がグループ面接の課題に「主体的にどのように参加するか」という観点で評価した。

※平成21年度のキーワード・・・「国民投票法、民法第4条、taspo（タスポ）、モラトリアム」の4つ

※平成23年度のキーワード・・・「デファクト・スタンダード、新興国、ガラパゴス化、スマートフォン、日本のものづくり」の5つ

(注) 平成22年度は、新型インフルエンザの影響によりグループ面接が中止となった。

(注) キーワードは、手近な資料（「現代用語の基礎知識」等）で調べられるものとするので、十分に勉強して欲しい。キーワードを調べる際に、教員が相談にのることは構わない。

#### (2) 結果に関する講評

事前に提示したキーワードを十分に勉強してきたと思われる生徒は、討論に積極的に参加できていたようである。反対にキーワードの勉強が不十分であった生徒は、討論に積極的に参加できていなかったようである。キーワードを勉強したうえで、課題に対してきちんと答えた生産的な意見を、自分の言葉で提示することが求められる。

また、グループの他のメンバーへの配慮を欠いた発表態度や、他のメンバーの意見をあまり聞かないような態度が見られると評価が低くなる。

全体としては、主体的かつ積極的に他のメンバーとの意見交換、討論に参加しようとする姿勢をぜひ見せて欲しい。

以上、推薦入試の趣旨をご理解の上、ご指導いただきたい。

## 個人面接

### (1) 方法

1人約20分面接を行った。質問は主に次の2点についてであった。

- (A) 自己推薦書と調査書の内容に関すること。
- (B) 大学での学業、学生生活、就職を含めた将来の計画、目的、希望に関すること。

### (2) 結果に関する講評

- (A) 自己推薦書の内容については書いた本人が一番理解し、知っているはずである。これに基づいて、要点と特に伝えたいことをわかりやすく話し、試験官の質問に対しては具体的に答えられるよう準備をしておいて頂きたい。
- (B) 本学の特徴（特にカリキュラム）と関連付けながら進学の目的、学業への希望や計画を話して頂くことが極めて重要である。当然のことであるが、本学のアドミッション・ポリシー、教育理念、カリキュラムについては受験生本人が調べて充分理解していることを前提として質疑が行われる。また、将来就きたい職業や取得したい資格などがある場合には、それについても具体的なことを問われる場合があるので準備をしておくこと。

### その他

- (C) 試験官の質問に対して受験生は的確に答えることが必要不可欠となる。受験生は緊張のあまり質問の意味が理解できない場合も考えられるが、その時は聞き返して頂いて結構である。
- (D) 本学へ入学したいという意思を繰り返して述べるだけでは不十分である。なぜ本学への入学を希望するのか、という理由を具体的に話すことが大切である。
- (E) 試験の公平性を保つため、個人情報となりえる高校名は面接室に入る時、また、面接を行っている間は言わないようにして頂きたい。